



ひょうご農地・水ニュース（第27号）令和5年3月

ひょうご農地・水ニュース



CONTENTS

- P.2～3 多面的機能支払交付金に係る研修会
- P.4～5 優良事例地区の取組紹介
- P.6～7 草刈りフィールド・ラボ
- P.8～10 第15回ひょうご水と土のふるさとフォーラム
- P.10～12 お知らせ / 編集後記



兵庫県では農振農用地の80%を超える面積で、多面的機能支払交付金による活動が取り組まれています。これは全国でもトップクラスの取組率で、なおかつ取組面積は毎年増加傾向にあり、県内組織の皆様の持続的な取組みにより、地域資源の保全活動が盛んに行われております。

今号では、特に優良な活動を行っている組織の紹介や、水路補修に関する講演が行われた活動組織向けの研修会、15回目の節目を迎えたふるさとフォーラムに関する記事を中心に掲載しております。

兵庫県多面的機能発揮推進協議会
ホームページ

<http://hyogo-nouchimizu.com/>



兵庫県多面的機能発揮推進協議会
公式LINE

ID : @967ylkis

ご登録をお願いします！



多面的機能支払交付金に係る研修会

この度の研修会は、県下5会場で総勢1700名を超える方々にご参加いただきました。

「水路補修」、「外来種」の2つの主テーマと、多面的機能支払制度に関わりの深い「地域資源保全管理構想」に関する研修会を行いました。



研修会の内容

		参加者数
【神戸・北播磨・東播磨地域】	三木市文化会館	令和4年11月28日(月) (461名)
【但馬地域】	豊岡市民会館	令和4年12月9日(金) (309名)
【丹波・阪神地域】	三田市総合文化センター	令和5年1月13日(金) (260名)
【中播磨・西播磨地域】	赤とんぼ文化ホール	令和5年1月18日(水) (428名)
【淡路地域】	洲本市文化体育館	令和5年1月20日(金) (246名)

1. 新素材シリコン樹脂を用いた水路の漏水封止技術について
2. 地域資源保全管理構想の策定について
3. 水田におけるジャンボタニシ対策について
(但馬地域のみ「水田における生物多様性への配慮について」)



是非ご覧下さい!

研修資料は、協議会HPに掲載中です。下のリンクかQRをご利用下さい。
(協議会HP：<https://hyogo-nouchimizu.com/event/2337/>)

1. 新素材シリコン樹脂を用いた水路の漏水封止技術について

【講師：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所】

標本作成にも用いられる液体性のシリコン樹脂を利用して、水路の漏水箇所の補修を行う方法について講義いただきました。

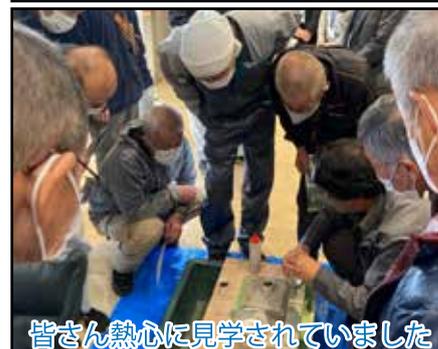
→実演ではヒビ割れに砂を振り掛け、その上からシリコン樹脂を塗りつけることで、おおよそ1時間程度で、ヒビ割れが補修されました。



舞台上での実演



修復されたヒビ割れ



皆さん熱心に見学されていました

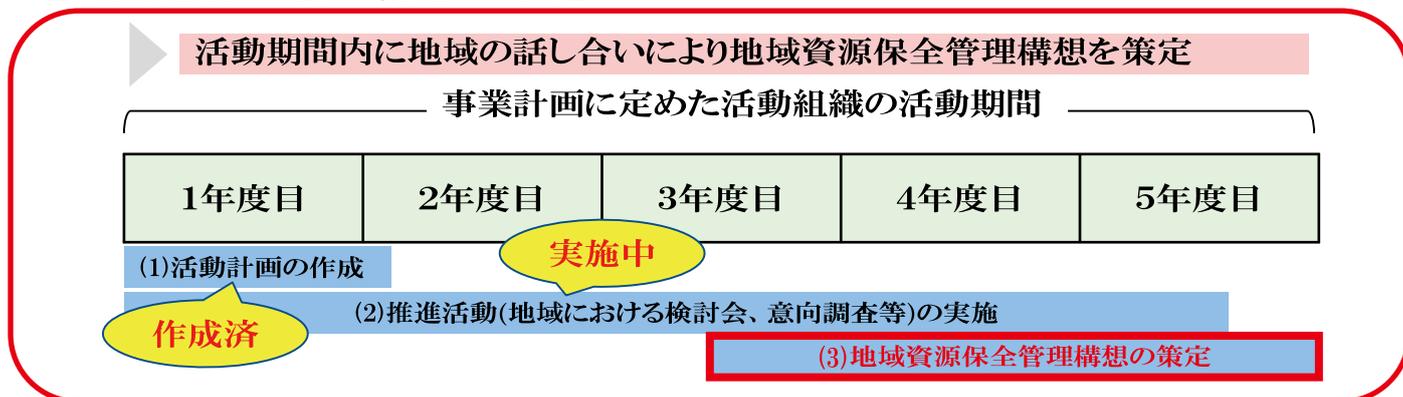
多面的機能支払交付金に係る研修会

2. 地域資源保全管理構想の策定について

【講師：兵庫県 農林水産部農地整備課】

活動組織が、約5年後に目指すべき保全管理に向けて取り組むべき活動・方策をとりまとめる「地域資源保全管理構想」について講義いただきました。

地域資源保全管理構想の策定のスケジュール



3. 水田におけるジャンボタニシ対策について

（但馬地域のみ「水田における生物多様性への配慮について」）

【講師：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所】

始めに外来種の「ジャンボタニシ」の生態について説明され、その後、実務的な対策（処理、処分）方法について、事例にも基づいたものも含めて解説いただきました。

但馬地域では「ジャンボタニシ」の被害が現在、確認されていないことから、水田回りの環境配慮、生態系保全、外来生物に関する講義をいただきました。



ジャンボタニシ対策

ジャンボタニシは田んぼの端にある溝を好む

- ・冬季の耕うん
- ・薬剤の利用
- ・米ぬか等で一定の箇所におびき寄せる
- ・水位を浅くして端に留める
- ・耕地品目の変更（1年のみでも）

※詳細な方法については研修資料をご覧ください

保全活動の役割と水田が果たす環境への貢献

多面的活動
（水田の
環境保全や
生態系保全）

- ・生物の生息地
- ・害虫の大発生を抑制
- ・水害の抑制
- ・地域の気候緩和
- ・地域の景観形成
- ・地下水の涵養

地域の
大きな
公共利益

参加者の声

【新素材シリコン】○実演されて理解しやすかった。長所、短所に関する説明もあって良かった。○水路・防水封止が簡単ですぐ実施できそう。○安全性についても詳しく聞きたかった。

【地域資源保全管理構想】○実際に作業を行いながら講義を受けたい。○既に策定済みだが毎年構想を見直していきたい。○もっと時間を掛けて、具体例も交えた説明も聞きたい。

【ジャンボタニシ】○生態系も踏まえた説明で、分かり易い研修でした。○自然環境について理解しながら地域環境保全をしていきたい。○ジャンボタニシの生態、防止策が分かり有意義だった。

優良事例地区の取組が紹介されました！

本年度の『みどり豊かなふるさと大賞』受賞地区の取組がサンテレビ番組「あんてなサン」で紹介されました。番組取材には協議会も同行し、各組織にお話を伺いました。サンテレビホームページでは「あんてなサン」の過去の放送を掲載しています（https://sun-tv.co.jp/antenna-sun/oa_movie）。

知事賞

みやまき 宮置資源保全活動隊（姫路市夢前町宮置）

取材日：令和4年9月28日 放送日：令和4年10月16日

大区画化による**大型トラクターの無人自動運転**や、**ドローンによる薬剤散布**など、攻めの農業を実践し、地域の話し合いを重ね、**次世代を意識した取り組み**が高く評価され、知事賞を受賞されました。

取材では、**AIによるビニールハウスの温度管理**や、草刈り回数軽減のため、**ムカデ芝を定植**している法面などを見学させていただきました。

6次産業化にも力を注ぎ、地域の農産物を使用してパフェやかき氷などのデザートを販売しています。

また、農場を利用した**農業体験学校**や、**田んぼの生きもの教室**を開催するなど、学校等教育機関との交流も盛んです。

20年以上先人口が減っていても宮置地区を残していきたいという思いから、ICT利用によるスマート農業により“**未来型田舎**”の創設を進めています。



ビニールハウスでのAI管理によるいちご栽培



ムカデ芝の定植



地域のとうもろこしを利用したかき氷



無人自動運転トラクター

委員長賞

のじょう 野上農地ふるさと会（豊岡市野上）

取材日：令和4年9月29日 放送日：令和4年10月23日

非農業者・子供も含めた**全員参加の農地維持活動**を積極的に行うことで、農業への関心につなげていること、**コウノトリ育む農法**による米作りの実施や、大看板設置によるコウノトリ舞う美しいふるさとのPRに努めていることが評価されました。

取材では、地域で作られた**有機質資材**（牛ふんの肥料）による土づくりの作業を見学し、冬場も田に水を張る**冬期湛水**や、オタマジャクシ等が上陸する7月上旬から中旬まで中干しを延期する**中干延期**など、コウノトリのエサとなる生態系の保全に努めているお話をお聞きしました。

併せて、無農薬・減農薬で栽培するため、種子の消毒にも農薬は使わないなど、「**地球にやさしい、環境にやさしい**」を合言葉に、コウノトリが定着し、遊べる農場づくりに取り組んでいます。



看板設置によるPR



ほ場で遊ぶコウノトリ



住民総出のクリーン作戦



コウノトリ育む農法により栽培されたお米



委員長賞

おおやま

大山地区農・水・環の会（丹波篠山市大山地区 10 集落）取材日：令和4年10月14日 放送日：令和4年11月20日

地域では女性や若い人が大型ラジコン草刈り機で作業をするなど、**世代を超えた取り組みの推進、特産品のブランド力向上、小学生への農業体験や獣害対策の学習**などに力を注いでいます。10 集落の広域組織で課題を共有し、地域資源を活用しつつ住民一体となって、コミュニティを大切に**した持続可能な地域づくり**を進めているところが評価されました。

取材当日は、近隣の小学3年生によって特産品「**天内芋（あもちいも）**」の収穫が行われました。この地区では毎年の農業体験を、種まき、収穫、レシピの作成といった一連の流れを通して、子供たちへ**農業の魅力を発信、食育の推進**をしています。

今後も次世代との交流に努め、特産品を大事にし、活かすことで**地域の維持、発展**に努めていきます。



農業体験 収穫作業



リモコン式草刈機の活用



大山上特産品「天内芋」



特産品「大山スイカ」

委員長賞

かんのんじ

観音寺農地保全協議会（多可町加美区観音寺）取材日：令和4年10月23日 放送日：令和4年11月27日

“多可町菜の花エコプロジェクト”の一翼を担い、遊休農地でなたねとそばを**有機栽培**し、商品化していること、美しい景観維持活動のために営農組合を立ち上げて集落の半分を農地集積したこと、“**木の家プロジェクト**”での**学生交流**など、環境に優しい農業の実践と地域外交流の推進が評価され、委員長賞を受賞しました。

取材では、**ひょうご安心ブランド**を取得したなたねを用いた商品の紹介や、木の家プロジェクトにより神戸大学生が主体で集落に建設したログハウスの見学を行いました。学生の方のお話から、祭りや保全活動への協力など、継続して地域の取組に参加している様子を伺うことができました。

今後も交流による人材育成にも積極的に取組み、**美しい環境・景観の維持**に努めていきます。



多可町菜の花プロジェクト
遊休農地での菜の花栽培



木の家プロジェクト
建設されたログハウス



二毛作による
そばの有機栽培



ひょうご安心ブランドを
取得した菜種油

草刈りフィールド・ラボ



「草刈りフィールド・ラボ」では草刈り作業の省力化を目的に、主に「日常管理」と「現地研修会」を実施しています。ここではその実施内容について、ご説明いたします。

日常管理

「日常管理」では佐用町仁方地区に設置した展示ほ場で、7つの項目による草刈、管理を実施しています。

記録は、作業時間の計測を始め、自由意見等を記載しており、実際に地元の方に実施していただくことで、地元の目線から見た草刈りの省力化技術の検証をしています。

※②グランドカバーのみ淡路市の谷山ダム法面で実施

7つの項目「日常管理」	①傾斜用草刈機	トラクター装着型モアを活用した草刈り
	②グランドカバー	ムカデ芝を活用した抑草
	③高刈り	安定板を活用した草刈り
	④足場設置	法面ステップを活用した草刈り
	⑤抑草剤+刈払	草刈り後に抑草剤を活用
	⑥刈草処分比較	放置、野焼き、撤去による処分
	⑦慣行	年間草刈り回数、時期変更



①傾斜用草刈機 トラクターモアでの草刈り



④足場設置 傾斜面へのステップの設置



⑥刈草処分比較 草刈り後の野焼きの実施

様々な側面から検証を行うことで、様々な規模、地域類型の活動組織に見合った、多様な省力化技術の促進を目的としています。

現地研修会

「現地研修会」では、刈払機を用いた安全講習や、最新式の草刈機の実演見学、体験ができる研修を、展示ほ場と同じ仁方地区のほ場で実施しています。

前年同様7月の開催を予定しておりましたが、荒天による影響で10/26（水）に代替による開催を行い、午前・午後の2部構成で約200名の方にご参加いただきました。

協議会HPでは研修会当日の配布資料や動画を掲載しております。
『<https://hyogo-nouchimizu.com/event/2336/>』 またはQR→



トラクター装着型モアの実演



草刈機メーカーへの自由見学・質問コーナー

《研修内容 例》

- 安全講習
- 説明・実演・体験
 - ・トラクター装着型モア・自走式（歩行）
 - ・ラジコン式 など
- 自由見学・質問

最新式の草刈機が登場！



トラクター装着型



ラジコン式



自走式（歩行）

※草刈機の画像はイメージです



ラジコン式草刈機の実演

実際に刈払機を使用しての安全講習や、最新式の草刈機が動く様子を、見て、聞いて、体験して知ってもらうことで、安全性の向上や、省力化技術を促進しています。

全国シンポジウムで「草刈リフィールド・ラボ」の取組発表が行われました!!

兵庫県及び推進協議会は、令和5年1月23～24日に東京の砂防会館で行われたシンポジウムにおいて、「草刈リフィールド・ラボ」の取組発表を行いました。

会場とWEB配信を通じて、全国の都道府県や市町、水土里ネット、活動組織、総勢900名ほどに兵庫県の取組を紹介しました。



（全国土地改良事業団体連合会主催：「農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム」内、「多面的機能支払活動の効率的・効果的展開に向けた全国研修会（第2部）」より）

第15回ひょうご水^{みどり}土^り里^の ふるさとフォーラム 持続的な地域づくり ～棚田から見えるこれからの農村～



令和4年
12月22日(木)
13:30～16:00

場所
兵庫県公館

今年度は棚田地域での取組みを例に、地域内外の多様な参加者や世代との交流を通じた持続可能な農村社会の実現を提案するために、「持続的な地域づくり～棚田から見えるこれからの農村～」をテーマに開催しました。

今回は3年ぶりに兵庫県公館で開催され、コロナ禍による人数の制限はございましたが、満員となる240名の方に加え、サテライト会場でのWEB視聴からは190名の方に、ご参加をいただきました。

セレモニー

主催者として、服部副知事より、県内多面的関係者への日頃のご尽力への敬意と、このフォーラムが持続的な地域保全活動を考えるきっかけとなればとお話がありました。

来賓を代表して、宮崎参議院議員からは、多面的制度のさらなる改善、確立に努めるとお話をいただきました。

その後、令和3年度、特に優れた取組を実施した4つの組織に「みどり豊かなふるさと大賞」の授与式が行われました。

選考に携わった「豊かなふるさとづくり推進委員会」の星野委員長からは、地域資源を活用しつつ、住民一体となった活動を行う、持続可能な地域づくりへの姿勢が素晴らしいとの講評をいただきました。

- 宮置資源保全活動隊 (姫路市)
 - 観音寺農地保全協議会 (多可町)
 - 野上農地ふるさと会 (豊岡市)
 - 大山地区農・水・環の会 (丹波篠山市)
- 知事賞**
- 委員長賞**



基調講演 ～都市交流と大学生連携による持続可能な棚田保全と地域づくり～

基調講演では日本グラウンドワーク協会の中里理事長より、お話をいただきました。

農村地域の中でも、棚田が多い中山間地域は耕作放棄地が増加する危機的な状況にあり、保全のための4つの方策を、静岡県内での事例を基に紹介いただきました。

①「NPO法人の設立」では事務局に地域外人材を確保でき、②「棚田研究、支援の大学サークル設立」では若い農作業人材の確保が安定化し、地域イベントにも積極的に参加してもらえるようになりました。



また、一区画年間定額で田んぼを借入れ、農作業の体験実施や、地域の棚田米、新茶を受け取れる③「棚田オーナー制度」には都市住民からの参加が多く、安定した活動資金確保ができるようになり、④「情報発信活動の積極化」をすることで、棚田地域の魅力に気づいた方々が、観光、ボランティア、研修、視察等様々な形で来訪する機会が多くなっています。

これらの方策により都市との交流人口、関係人口の増加を促し、地域の基盤を安定させることが棚田地域の保全につながるのお話で、持続可能な農村社会の実現に非常に関わりの深い講演をいただきました。

持続可能な棚田保全の4つの方策

- ① NPO法人の設立
→持続的な活動組織づくり
- ② 大学生サークルの設立
→安定した農作業支援の確保
- ③ 棚田オーナー事業の導入
→安定した活動資金の確保
- ④ 情報発信活動 →充実した広報

事例発表・パネルディスカッション

事例発表では知事賞の「宮置資源保全活動隊」、昨年度に優良な棚田『つなぐ棚田遺産』として認定を受けた「飯見の棚田（宍粟市）」、「能座の棚田（養父市）」より、各地形の特徴を活かした地域づくりと特産品の開発などについて紹介をいただきました。

その後、星野委員長の進行の下、パネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッション

◎ **次世代育成、担い手の確保について**

高階：農業特区となり地域に参入した営農法人に大阪から働きに来てくれた方がいます。私の村の若い者も1人加わり、**200枚以上の田を担って**くれています。

岡田：私の地域では地域で田んぼに携わった人が次の担い手として出てきている。**大事なのは小さい頃から土をさわる**ことで、小学校など教育機関で、算数、理科に並んで農業関係の授業を取り入れてくれればありがたい。

衣笠：小学生には自分達で考える主体的な体験農業を、中学生には生産に留まらず、販売まで行ってもらうことで、**食育の深い部分まで掘り下げるような取組**を掲げている。また、地域の就農支援を行う企業で3年の研修を受けてもらい、20名程の就農者を輩出したが、本業としてできているのは11名のみ、**専業農家は難しい**と感じています。

星野：飯見と宮置の話はつながる部分があって、**農業体験に物語をつけることで、よりその人の印象に残るもの**にしている。強い思い出によって、将来地元に戻ってくる人もでてくるのでは。

【コーディネーター】	京都大学大学院教授	星野 敏
【コメンテーター】	日本グラウンドワーク協会会長	中里 良一
【パネリスト】	宮置資源保全活動隊代表	衣笠 愛之
	能座地区代表	高階 博
	飯見夢むら棚田の会会長	岡田 初雄
		(以上敬称略)



星野氏

中里氏



衣笠氏(宮置)

岡田氏(飯見)

高階氏(能座)

パネルディスカッション

◎ 持続的な地域づくり 今後の抱負

高階：集落機能が弱っているため、どうやって再生するかが大事。地域では60歳以上の消防団を結成するなど、若い力だけに頼らず、集落機能の維持に努めています。

岡田：以前、新潟県魚沼市出身の女優の大桃 美代子氏をお呼びし、農業の話で非常に盛り上がった。また、農村の良さを知ってもらうイベントを開催するなど、楽しいことを積極的に作って地域の活動に取り組みたい。

衣笠：若い力をいかに取り込むかが大事。地域では、2050年の将来像に向けてのアンケートを10歳から49歳限定で実施するなど、若い人が主体となるよう促進しています。また、多面的の枠に留まらず、自治会なども巻き込んで、集落の維持を地域共通の課題として取り組んでいきたい。

星野：持続的な地域づくりの秘訣を聞くことができました。また、お話を聞いて皆さん地域に誇りを持っておられるなと思いました。中山間地域では棚田がシンボルとなり、次世代につなげるという目的ができています。誇りを持てれば、自分達の地域が条件不利であっても、逆に不利であればあるほど、活力が生まれるのだと感じました。

中里：20年後、30年後を見据えた活動は大事で、担い手づくりのために、外部からの人材確保を、最初は交流人口、関係人口を増やす形で取り入れていければ。本日は様々な課題が浮き彫りになったかと思いますが、来年度も継続してフォーラムを開催して頂いて、今回出た課題の深掘りをしてもらえればと思っております。



フォーラムに関する資料については、協議会ホームページに掲載をしています。是非ご覧ください。<https://hyogo-nouchimizu.com/forum/forum/>



お知らせ

活動の事故防止と保険加入のお願い

多面的機能支払交付金の活動中の事故発生件数は毎年度増加傾向にあります。3年度は160を超える事故報告が農林水産省にあり、特に草刈作業中の事故が7割近くを占めています。

活動作業時には適正な服装の着用と、機械の事前点検、休憩の確保など安全管理への徹底をお願いいたします。

また活動に対する保険料は、多面的機能支払交付金による支援の対象になります。活動の前に保険加入のご確認をよろしくお願いいたします。



草刈時にはヘルメット、長袖、長ズボン、手袋、長靴、保護メガネ等の着用をお願いします



多面的機能支払交付金 × SDGs

昨今、ニュース等から SDGs という言葉をお聞きになられた方も多いかと思います。SDGs とは国連サミットで取り決められた、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標のことを言います。

今だけではなく、未来の地球環境や人類の生活が安定したものとなるような活動を心がけるといふ考えは、身近に思うことは少ない方も多いかもしれませんが、実は皆様が行き組まれている多面的機能支払交付金の活動は SDGs とも大いに関わりがあります。

<h3>地域協働力</h3>	<h3>I 資源と環境</h3>		<h3>地域資源と農村環境の保全</h3>		
<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>地域協働の力により目標達成</p>		<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>
		<p>水質保全</p>	<p>雨水貯留 災害対応</p>	<p>生物多様性 保全</p>	
<h3>II 社会</h3>		<h3>農村地域社会の維持・強化</h3>			
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	
<p>福祉・教育連携</p>	<p>環境学習等の提供</p>	<p>女性の参画</p>	<p>持続可能な地域づくり</p>	<p>多様な主体の参画</p>	
<h3>III 経済</h3>		<h3>構造改革の後押し、地域農業への貢献</h3>			
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>		
<p>農業生産の下支え</p>	<p>文化の伝承 都市農村交流</p>	<p>災害に強い 施設長寿命化</p>	<p>資源循環 環境保全</p>		

草刈り、施設補修、環境学習、地域の話し合いなど、活動組織としての様々な活動が、SDGs の 17 の目標の内、上記 13 の項目のいずれかに該当します。

組織の皆様には、日頃から農業農村の維持保全活動にご尽力いただいているかと思いますが、この SDGs の目標が、皆様の継続的な活動につながりますと幸いです。



協議会ホームページがバージョンアップしました

推進協議会のホームページ（以下HP）が使いやすく、見やすくなりました。

・トップページのメニュー欄が見やすくなりました。

これまでメニューに表示がなかった「イベント情報」ページが追加されたことで、「お知らせ」欄を経由することなく各種イベント紹介のページに移動することができるようになっています。



・スマートフォンからでも見やすくなりました。

HPを閲覧した際に、小さい文字で表示される問題が解消され、スマートフォン用の大きい文字が表示できるようになっています。



HPの主な掲載内容。（ ）はHPで掲載している場所名

- 「多面的機能支払交付金の活動の手引き」（お役立ち情報）
 - 過去の「農地・水ニュース」（農地・水ニュース）
 - 「多面的機能支払事務支援システム」、申請・報告に関わる書類の様式（様式集）
 - フォーラムや研修会の開催報告・資料掲載、優良地区の事例紹介（各種イベント）
- その他、最新の更新情報はHPトップページの「お知らせ」への掲載と、LINEアプリでの通知により行っています。



**LINE登録をいただいている方にも、スマートフォンでHPが見やすくなっています。
この機会に是非、協議会LINEへのご登録をお願いします。**

編集後記

コロナ禍の生活も4年目を迎え、マスクの取り扱いなど私達の生活も少しずつ変化が訪れています。この度、取材に訪れた4つの組織は、持続的な地域づくりを目標の一つに、コロナ禍でも前向きな活動に取り組まれていました。

来年令和5年度は多面的機能支払交付金制度の5年毎の節目を迎える年です。同時に5年間の活動の最終年となる組織様も多くおられます。活動に制限が掛かる難しい時代ではございますが、この農地・水ニュースをご参考に、一つでも多くの組織様が6年度以降も活動を継続していただければ幸いです。